

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2019 年 2 月 13 日

氏名：田中千陽

所属：教育文化学部 地域文化学科 人間文化コース 3 年

派遣先大学：蘭州大学（中国）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2018 年 3 月～2019 年 1 月

渡航年月日：2018 年 3 月 2 日

帰国年月日：2019 年 1 月 21 日

派遣先大学における授業等の履修状況

講義名	履修期間	週当たりの講義時間
初級汉语Ⅱ(初級中国語Ⅱ)	2018年3月～2018年7月	4
初級口語Ⅱ(初級口語Ⅱ)	2018年3月～2018年7月	3
初級聴力Ⅱ(初級聴力Ⅱ)	2018年3月～2018年7月	2
中級汉语Ⅰ(中級中国語Ⅰ)	2018年9月～2019年1月	3
中級口語Ⅰ(中級口語Ⅰ)	2018年9月～2019年1月	3
中級聴力Ⅰ(中級聴力Ⅰ)	2018年9月～2019年1月	2
中級読書Ⅰ(中級読書Ⅰ)	2018年9月～2019年1月	2

研究・学習概要及び今後の勉学計画

蘭州大学の留学生向け中国語のクラスは初級Ⅰ・Ⅱ、中級Ⅰ・Ⅱ、高級と細かく分かれています。留学先に着いてすぐ簡単なテスト（先生と中国語でコミュニケーション）を受け先生が生徒の力量を見て履修クラスを分けます。また、クラスが決まっても数日授業を受けた後自身の意志でクラスを変更することも可能です。

授業は主に「汉语課（主に文法を学ぶ授業）」「口語課（中国語でのコミュニケーション力を養う授業）」「聴力課（リスニング力を養う授業）」があります。始めに所属していた初級Ⅱクラスはこれらの3つの授業を受け、留学2学期目に中級Ⅰクラスに上がり「読書課（長文読解の授業）」を入れた4つの授業を履修しました。以上紹介した授業は全て座学ですが常に発言が求められるので自ずと発言力が鍛えられます。簡単な会話文を考えてグループで発表したり自国の文化を紹介したりする機会もあるので楽しく授業に参加することができます。先生やクラスメイトはみんなフレンドリーで授業はいつも和気藹々としているので、発言することに自信が無い方でも徐々に慣れていくことができるはずです。

授業のない時間を上手く利用して現地の学生とご飯を食べながら会話を楽しんだり、中国の映画を見たり中国の曲を聴いたりしました。中国語は特にリスニングが難しいと感じ

ています。クラスメイトはみんな外国人なので、現地の友達に自分から話しかけネイティブの中国語を聞きに行く姿勢が大事です。そのほか放課後は HSK の試験準備にあてていました。

語学を学び始めた人にとって、「実際に話してみる」ことはとても勇気のいることだと思います。しかし私と共に中国語を学ぶ留学生達は細かいことは気にせずどんどん話して会話を楽しんでいました。私は留学したての頃はよく周りと比べてしまいがちで、いらいらしたり落ち込んだりしていましたが、「間違っても伝える努力をすれば良い」と感じるようになってからは周りとの差に気にならなくなりました。自分のやるべきことにマイペースに取り組むようになったら精神も安定し学習効率も上がりました。留学前は HSK2 級レベルでしたが、留学 2 学期目に HSK5 級を取得することができました。今の目標は HSK6 級取得です。自分に合った勉強法がわかったので、今後も怠ることなくコツコツ中国語の勉強に励みたいです。

また蘭州の特徴ですが中国ムスリムが多く住んでいて、街中にはイスラームのモスクやハラールレストランが混在しているほか、蘭州大学に在籍している留学生もアジア、アフリカを中心に多くの国々から集まっておりムスリムの学生も多いです。実際に現地で彼らの生活の様子を直に見ることで、日本人の私にとって彼らの文化・宗教・生活様式は特別なように思えてしまうけれど彼らにとってはそれが普通のことであって、私も彼らも今を生きているという実感が湧き、自然とイスラームに興味関心を持つようになりました。卒業論文もイスラーム（主に中国ムスリム）について取り上げていく予定です。

生活面について

● 留学前の準備について

中国ビザの条件は頻繁に変わるためその都度正しい情報を把握して早めに手続きしておくといいでしょう。クレジットカードに関して中国であれば「銀聯」マークの付いたもの (Union Pay) が一般的です。「VISA」や「Master」といった日本や他国でよく使われるクレジットカードは使えないことの方が多いので日本で「銀聯」のクレジットカードを準備しておきましょう。そして中国大陸では VPN に接続しないと LINE、Twitter、Instagram、Facebook、Google、Yahoo 等が繋がりませんでした。このように日本と中国で生活上異なる点がたくさんあるので、留学前に中国の生活事情について情報収集することが大事です。

● 留学生寮について

留学生の寮は主に二つあります (专家楼と跃进楼)。私の場合、はじめは大学内のホテルを寮代わりに住んでいましたがホテルの改築工事があったため、今年度新しく改築された专家楼に夏頃引っ越しました。私が蘭州大学にいた頃は工事が盛んに行われていたので、寮が工事されているとき多くの留学生は大学内もしくは付近のホテルに住んでいました。私が住んでいた专家楼は洗面所、シャワー、洋式トイレ、ベッド、学

習机、タンス、暖房がありました。寮内に共同のキッチンがありますが、換気扇と水道しか備わっていないため、料理をするのであればコンロ含めキッチン用品は自分でそろえなければなりません。私は普段大学の食堂を使っていたため、寮のキッチンは使いませんでした。共同の洗濯機が 4 つありますが、よく壊れたり他の学生が使っていたりするため部屋で手洗いすることもありました。跃进楼はやや古い建物ですが、各部屋に水道、シャワー、和式トイレ、ベッド、学習机、タンス、暖房の他キッチンが設備されています。基本どの寮でも二人部屋です。私のルームメイトはモロッコ人でムスリムなので毎日部屋で礼拝する姿を見ていました。彼女の国の文化・宗教を知ることがとても楽しかったです。留学生同士で集まって料理をつくって交流を楽しむことも多く、毎日生き生きと過ごすことができました。

- 大学内外のようす

大学内には学生寮、食堂、コンビニ、ATM、病院があり、大学の周りには大型スーパー、銀行、携帯会社があるので、遠出しなくても日常の生活に必要なもの・ことはすべて整います。校内に公共で使えるパソコンの設備はないので、自分のノートパソコンを使います。教室や図書館には Wi-Fi があります。专家楼にも最近新しく Wi-Fi が設置されたのでケータイの通信料は大幅に節約できるかと思います。現地のコンセントの形は日本と同じタイプもあったため、変換器なしでも使えることが多かったです。

- 大学のサポート体制、各手続き

留学生の生活をサポートする現地の学生ボランティアがいて、留学前に連絡先を交換し現地の空港に迎えに来てくれました。中国でのスマホ利用ですが、私の場合日本で使っていた自分のスマホに中国の携帯会社で購入した SIM カードを入れて利用していました。現地でスマホを購入する学生もいます。このような携帯会社の手続き、銀行口座の作り方等も現地学生が熱心に手伝ってくれました。彼らはよく私を外に遊びに連れて行き現地のことについて教えてくれたので一人で蘭州に行った私にとって当時本当に心の支えになりました。

- 食べ物事情

大学の食堂は毎日開いていてメニューも幅広く値段も安いです。私の利用していた食堂は三階建てで、二階フロアにはターンテーブルがあり、大勢で囲って食べられるようになっています。初めて利用したときは本格的な中華料理店のような装いに驚きました。大学外にも安くておいしい店がたくさんあるため食事には困らないかと思いません。現地のローカルフードを始め日本にはない料理がたくさんあるので、是非いろんな店に行ってみてください。洋風のレストランや日本料理店もありますが、やはり現地の料理が一番おいしいです。

現地の交通について

市内を通るバス・タクシー共にとても安く移動が非常に便利でした。バスは市内であれば一律 1 元、タクシーは一時間乗っても 240 元くらいで済みます。そのため放課後や休日にこのような交通機関を利用してよく市内のデパートや観光スポットに遊びに行きました。また道端に自転車がおいてあり、スマホで登録するだけで誰でも利用することができます。今後蘭州に地下鉄も開通すると聞いているので、ますます現地の交通が便利になってきていると感じています。

- 治安やトイレ事情

貴重品管理をしっかり行う、日が暗くなる前に帰る等基本的な自己管理ができていれば大きな事件には巻き込まれないかと思えます。中国のトイレ事情について、和式トイレが主流ですが洋式トイレも増え、清潔に利用できる場所が増えています。しかし日本のトイレの設備・個人のトイレマナーはやはり素晴らしいと実感するのが現状です。

- 買い物について

一年も現地で生活していると、中国の経済発展の速さを直に感じることができます。現在中国はキャッシュレス化が非常に進んでいてバスやタクシー、現地の店での買い物すべてスマホで決済ができます。ネット通販や出前サービスも画期的なので、よく利用していました。特に「淘宝」というネット通販サービスは食料・衣服・電化製品など幅広く売られていて頻繁にセールが行われているため安く良い商品を手に入れることができ便利です。

- 現地の気候

空気汚染に関しても、冬になると目に見えて空気が悪い日もありますが、空気汚染のせいで体調を崩すことはありませんでしたし、基本的に晴れていて空気が澄んでいる日の方が多かったです。雨や雪があまり降らず、風も穏やかなので、むしろ過ごしやすかったという印象です。

以上生活面について不便な点・便利な点どちらもあるかと思いますが便利と感じることの方が多かったです。トイレが流れない、シャワーヘッドが壊れている、お湯が出ない等、部屋の設備が壊れていたときは少々苦労しましたが寮の職員に伝えれば直してくれますしそのようなときこそ友達と助け合うことが大切です。

その他留学全般にわたる感想

とにかく様々な活動に自分から参加してみることを常に意識して過ごしました。蘭州大学はイベント運営にとっても力を入れており、私は運動会や太極拳講座、クラス旅行、歌唱大会などさまざまなイベントに参加しました。特に印象に残っているのは校内歌唱大会です。テレサ・テンの「時の流れに身を任せ」を現地の学生と二人で歌ったり、中島美嘉の「雪の華」を中国語で歌ったり、音楽を通して文化交流をすることができました。またクラスで行った銀川旅行ではラクダに乗ったり砂漠を歩いたり貴重な体験ができました。

休日や長期休みを利用して北京、上海、台湾旅行にも行きました。どの旅行も思い入れがありますが、上海旅行は自分で計画を立て一人で寝台列車に乗り上海に向かいました。上海に着くまでの寝台列車の中で中国人男子学生と中国の恋愛観について討論したことは忘れられません。上海到着後は知り合いの中国人の友達と合流して観光したり、日本の友達を迎えて案内したりして、自分からいろんな人に会いに行くことを意識して行動しました。

この1年間で自分の行動力がさらに高まり、メンタルも鍛えられました。私が日本では当たり前のこと、常識だと思っていたことが現地で必ずしも通じないことを痛感し寛容な心を持って周りの人と向き合う術を学びました。現地の学生や、現地で仲良くなった方々は皆私に親切にしてくれて、問題があったときは解決するまで私を支えてくれました。時に迷惑をかけてしまい私個人の態度の甘さに気付いたときは自立心が更に芽生えました。「まずは一人で積極的に行動し、わからないときは素直に周りに助けを求める」このような姿勢は当たり前のことのように実は難しいです。一人で何とかしようとして失敗した、周りを頼りすぎて失敗した、いろんな失敗をしました。異国の地では初めて直面することの連続でその都度どう動けばベストなのか判断するのが難しかったです。いろいろな経験を経て以前より自分ができること・できないことを理解して動けるようになったと思います。このような考え方ができるようになったのも、自分の中国語が発展途上のまま日本語・英語が使えない環境にいて様々な価値観を持った人と出会えたからこそだと思います。

中国は広大で、中国人の気質や性格も個人単位で見ると全く異なっています。日本は歴史上中国から多くの影響を受けているため似ている部分が多いけれど実際に現地に行くと「似ているようで違う」「実はここが似ている」ことに気づくことができます。その都度新しい発見を見つけられる毎日はとても新鮮でした。

そして一緒に中国語を勉強していた留学生達はみな自分の国を愛していました。彼らの国の文化や社会を教えてもらうことで日本にいたら芽生えることのなかった興味関心が湧くのと同時に、もっと日本のことを理解し自ら発信したいという気持ちが高まりました。中国語を学ぶための留学でしたがそれ以上に学ぶことはたくさんあって、中国内陸の蘭州まで行って過ごした1年間は本当に価値のある時間でした。私はこれからも、今まで出会った友達・これから出会う人々と気持ちを享有するために中国語を磨いていきたいです。この留学経験を無駄にすることなく、今後とも日々精進していきます。

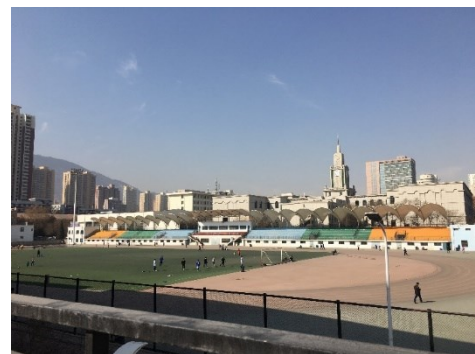
最後になりますがたくさんの方々の支援のおかげで有意義な留学生活を送ることができました。寄付してくださった方々へ、みなさんの援助があったからこそ、私は初めての中国留学・人生初めての外国に勇気を持って足を踏み込むことができました。ありがとうございました。そして秋田大学・蘭州大学の先生方、現地の知り合った全ての学生のみなさん、あらゆる面で私をサポートしてくれた家族のみんな、全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。



現地の学生と中山橋（本人：左から二番目）



校内歌唱大会



大学のグラウンド



クラスメイトのみんな（本人：前列左から二番目）